

## □最近の活動状況

### 【新年講演会】

— 2月5日(金)ザ・セレクトン福島 —

講師 アクセンチュア株式会社 アクセンチュア・イノベーションセンター福島  
センター共同統括 マネジング・ディレクター 中村 彰二郎 氏

テーマ 「スマートシティ会津若松の取り組みと都市OS」

参加会員数 52名

講演会に先立ち、高橋代表幹事より「目下、我々の最大の課題は、コロナ対応、克服である。同友会の良さでもある異業種交流の場で、有意義な情報交換を行い、次なる地域づくりに向け共に力を合わせていきたい」と今年一年の県内経済の発展に向けて挨拶されました。

以下、講演会の要旨を掲載します。

### ○スマートシティ<sup>アイクト</sup>AiCT

「スマートシティ会津若松」の取り組みの一環として、ICT 関連企業が機能移転できるビル「スマートシティ AiCT」が2019年4月に完成しました。それから1年半後にビルは満室となりました。このビルには、ヨーロッパ最大級のソフトウェア開発企業SAPが入居するなど、同じ目標を持っている32社のスマートシティ部門だけが集まっており、先進的な実証プロジェクトをすぐに実行できる環境が整っています。

会津に拠点を構えた大きな理由の一つは会津大学です。ブロックチェーンやAIなどの先端デジタル技術、人材を会津大学と共に育て、震災復興、地方創生、生産性向上を達成しようと目指しています。



講師 中村 彰二郎 氏



高橋代表幹事

### ○機能分散社会モデルへの挑戦

戦後復興するために日本は、東京と大阪を中心に全てを集める「密」戦略で成功しました。その後も日本は「密」を継続した結果、アメリカの生産性の半分になってしまいましたが、アメリカはその間に機能分散社会を確立したことで成長し続けました。これからの日本は、企業・政府・行政を分散できるかにかかっています。これからは「密」がリスクとなります。この点からすると新型コロナウイルス感染症は、分散には良いきっかけになったと思います。地方に機能の一部を分散させることが実現すれば、日本は必ずや再興すると思います。

会津若松市は人口12万人の地方都市です。日本の総人口の1,000分の1、東京都の100分の1です。会津地域には、再生可能エネルギー、ICT専門の会津大学、充実した医療環境、更には歴史・文化・観光・自然・農業といった地域資源があります。これらの特性を活かすことで、「密」から機能分散社会へ移行しスマートシティに成長させることは十分可能だと思います。

## ○三方良しの地域社会

「ヒト・モノ・カネ+データ」と言われる時代になり15年ほど経ちます。市民のデータを地域のために使うことがスマートシティです。会津若松市スマートシティプロジェクトでは、「データは市民個人のものである」という考え方を前提としています。市民がデータを自発的に提供し、個人のニーズに寄り添った利便性の高いサービス提供を受けることを「オプトイン」と呼んでおり、このオプトインを徹底している点が、会津若松の大きな特徴です。会津若松でスマートシティを始めて10年目となりましたが、スタート時は約100人、今は2割くらいの市民がデータを提供しています。全員が当事者として地域に深く関わりながら、地域の在り方を自分たちで決めていく21世紀型の新しいモデルと言えます。市民、地域、企業が「三方良し」となるルールの下で進めています。



会場風景

## ○健康長寿へ向けた取り組み

日本の平均寿命は世界一であり長寿大国ですが、医療費の多くは終末期や延命治療に費やされています。国民皆保険制度が導入され、誰もが低負担で医療を受けられるようになった反面、予防医療への意識低下を招いたことに一因があると思います。医療費拡大という課題解決のため、データに基づいて予防医療にシフトしていくプロジェクトを始めました。会津地域全体をバーチャルな医療機関と捉え、市民の健康状態をAIで把握し、疾患や症状に最適な医師や病院をマッチングする包括ケア体制の構築を進めています。

## ○スーパーシティへの挑戦

様々な分野でICTを活用し、市民生活の利便性向上を目指し「スマートシティ会津若松」を推進してきました。取り組みの中には、技術的に可能であっても法規制があり制限されてきたものもあり、次なるステージにステップアップするため、国のスーパーシティ構想に会津若松市は応募しました。特区に指定できれば、大胆な規制改革を行うとともに、先行的により良い暮らしを実現していく取り組みが可能となり、更なる発展、深化させることができると考えています。今後も会津地域で新しいモデルを作り、地域の活性化に貢献した上で、企業が実証モデルを全国に展開させていく支援を続けて参ります。

(文責：事務局)

## 【第33回全国経済同友会セミナー】

— 4月8日(木)東京都 —

昨年、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催中止となった全国経済同友会セミナーですが、今年はリアルとオンラインを組み合わせた新たな形式で開催されました。総合テーマは「新しい日本の再設計～コロナショックを新日本創造の契機に～」と題し、コロナ禍で顕在化した新たな価値観や社会の変化をとらえた上で、目指すべき社会や経営の在り方について議論が行われました。



桜田経済同友会代表幹事

□事務局だより

○2020年10月から2021年6月に入会・変更のありました会員を紹介します。(敬称略)

新規入会		2021年1月入会 おの まさあき 小野 雅亮 (株)小野工業所 代表取締役社長			
	会員交代		2020年10月交代 さとう しゅうじ 佐藤 正二 東邦土地建物(株) 代表取締役社長		2020年10月交代 はなたに ともたか 花谷 智隆 (株)商工組合中央金庫 福島支店 支店長
			2021年3月交代 いまづ けいじ 今津 啓司 東京海上日動火災保険(株) 福島支店長		2021年4月交代 さかもと あきとし 坂本 壮敏 SMBC日興証券(株) 福島支店長
	2021年4月交代 くらしま たかし 倉島 卓史 (株)クラシマ 代表取締役社長		2021年5月交代 えんどう てつや 遠藤 哲也 富士通Japan(株) 福島支社長		

●退会

武川 修一 (株)ザ・セレクトン福島・取締役総支配人

引き続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。(2021年6月20日現在 会員数102名)

○7月1日の通常総会において次のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

福島経済同友会 2021年度 役員 (敬称略、五十音順)

代表幹事	高橋 雅行	(株)福島民報社 相談役	常任幹事	新田 良一	(株)テレビユー福島 代表取締役社長
"	北村 清士	(株)東邦銀行 相談役	"	畠 利行	福島県信用保証協会 会長
"	阿部 隆彦	福島商事(株) 取締役会長	"	林 由美子	タカラ印刷(株) 取締役相談役
副代表幹事	加藤 容啓	(株)福島銀行 取締役社長	"	横山 淳	福島テレビ(株) 代表取締役社長
"	博多 義雄	朝日システム(株) 代表取締役社長	"	芳見 弘一	(株)福島民報社 代表取締役社長
"	樋口 郁雄	福島信用金庫 理事長	"	渡邊 和裕	(株)山水荘 代表取締役社長
"	渡邊 博美	福島ヤクルト販売(株) 代表取締役会長	会計監事	大村 雅恵	大和自動車交通(株) 代表取締役社長
常任幹事	蒲倉 達也	福島リコピー(株) 代表取締役社長	"	長谷川 登喜雄	(株)ハセガワーク 代表取締役
"	川瀬 成人	(株)川瀬酒販 代表取締役	幹事	瓜生 利典	(株)エフコム 代表取締役副会長
"	菅野 日出喜	菅野建設(株) 代表取締役	"	紺野 道昭	(株)こんの 代表取締役社長
"	齋藤 高紀	こころネット(株) 代表取締役会長	"	鈴木 宏幸	(株)杜設計 代表取締役
"	三枝 通晃	サンヨー缶詰(株) 代表取締役社長	"	立花 志明	(株)山川印刷所 代表取締役社長
"	佐久間 信幸	(株)日進堂印刷所 代表取締役社長	"	中川 俊哉	福島民友新聞(株) 代表取締役社長
"	佐藤 稔	(株)東邦銀行 取締役頭取	"	三浦 康伸	東開クレテック(株) 代表取締役社長
"	坪井 大雄	福島貸切辰巳屋自動車(株) 代表取締役社長	事務局長	渡辺 光則	(一財)とうほう地域総合研究所 常務理事

編集日誌

◇皆さんは「香り」から過去の記憶を思い出すことはありませんか？

◇今回、内池醸造さんへ伺った際、醤油・味噌の特徴的な麴の香りが敷地内に立ち込めており、子どもの頃、祖母の味噌作りを手伝った懐かしい記憶がよみがえりました。(今野)

## □会員企業紹介 【第28回 内池醸造株式会社】

今回は、内池醸造株式会社の内池社長にインタビューしました。今年4月に日本ギフト大賞2021福島賞を受賞した「野菜が好きになるスープ」のを中心にお話を伺いました。

### ○創業の経緯

1655年、近江商人の内池三十郎が現在の福島市大町に拠点を構えました。1830年以降は、反物や呉服や救命丸、目薬などを販売していました。7代当主の三十郎徳房が1861年の江戸時代末期に醤油、味噌の醸造を始めました。昭和22年、大町工場を森合町に移設し、平成7年に現在の瀬上町に新社屋工場が完成し移転しました。



内池 崇 代表取締役社長

### ○企業理念「不易流行」

国内外を問わず食を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。現会長が、「火傷で済む失敗ならどンドンやりなさい。致命傷にならなければ大丈夫だ。」と失敗を恐れず、新しいことにチャレンジすることの大切さを折に触れて社員に話しています。

当社の商品を身体に喩えると、醤油、味噌は両足で、たれ、つゆが上半身です。今は、上半身が強靱な状態ですが、両足がやせ細ってしまつてはやがて歩けなくなります。日本人の味覚の原点ともいえる二大調味料を守り続けることが我々の最終使命です。「変えてはいけないもの」「変わらなくてはいけないもの」を常に意識し、未来の豊かな食文化の創造に邁進して行きたいと考えています。

### ○「野菜が好きになるスープ」について

今まで我々は、醤油、味噌、たれ、つゆといった「味を付ける」世界でしか生きてきませんでした。これらの調味料は、他の何かと合わさることによって存在意義を示すことができます。これからの時代は、よりメニューに近いものを模索していかなければならないと考え、3年前、新規事業としてレトルト製品製造の機械を購入しました。レトルト食品と言えばカレーやシチューをまず想像しますが、殺菌機能を活用し我々の強みを活かした独自の商品作りにチャレンジしようと決めていました。

スープの中に刻んだ野菜が入っているという商品は数多くあります。「野菜が好きになるスープ」は、野菜と

いう部分にスポットを当てた商品で、トマト、玉ねぎが丸ごと1個入ったスープです。我々は後発のチャレンジャーですから、ユニークさにこだわりました。美味しいのはもちろんのこと、お客様にとってインパクトのある商品開発を心掛けました。

販売先も量販店というルートではなく、地元の温泉旅館や高速道路のサービスエリアなどのお土産、ネット販売といった新たな販路を開拓しようと考えていましたが、コロナ禍の中で厳しい状況になってしまいました。こうした中で、「日本ギフト大賞2021福島賞」を頂戴し、おかげさまでお問い合わせが多数あり、反響の大きさにとても驚きました。

### ○今後の展望

世界人口増による食糧事情、健康や環境などへの配慮から、欧米を中心に植物性たん白質は関心を集めています。日本でもよく耳にする代替肉(フェイクミート)の多くは、大豆が原材料に使われています。健康イメージとしての大豆は注目度が高いです。我々には、大豆を仕入れるルートもあり、大豆を蒸し上げる処理技術、知見もあります。これを最終商品として展開できるように、商品開発を進めて参ります。

現在の場所に移転してきた当時の販売構成は、醤油、味噌が8割、たれ、つゆが2割でしたが、今は全く逆です。たかだか25年で、周りから求められるもの自体が地殻変動を起こしたと実感しています。その背景には、女性の社会進出が大きいと思います。家事にかかる時間を少なくするため、可能な限り便利なのが求められています。当社の醤油、味噌を原料に、「美味しさ」や「食の安全性」はもちろんのこと、こだわりをもった新商品の開発製造を積極的に行い、多様化するニーズに応じて参りたいと考えています。



住 所 〒960-0101 福島市瀬上町字西上新田 1-7  
創 立 文久元年 (1861年)  
従業員数 100名  
T E L 024-554-6581  
U R L <http://www.uchiike.co.jp>